

2011 動物感謝デー in JAPAN
“World Veterinary Day”

開催趣意書



平成23年5月

社団法人 日本獣医師会

関係者の皆様へ

本年3月11日に発生した東日本大震災と、これに伴う福島第一原子力発電所の深刻な事故が各地に甚大な被害をもたらし、今なお多くの皆様が困難を余儀なくされておられることに対し、謹んで心からお見舞い申し上げます。

人々とともに被災した多くの動物たちの様子が被災地から伝えられる中で、緊急災害時における動物救護対策のあり方についてもかつてないほど国民の関心が高まっています。

日本獣医師会では、このたびの震災を機に、あらためて動物と人が共存して生きる社会のあり方を関係者、そして国民の皆様と共に考えるとともに、獣医師の立場から災害対策をはじめ動物飼育に係る適切な情報発信を行うことが重要であると考え、本年度につきましても市民参加イベント「動物感謝デー in JAPAN」を開催することといたしました。

被災地に一日も早く安心な生活が戻ることを願いつつ、被災地の復興支援と動物たちに係る防災意識の高揚のために、これまでも増して活気あふれるイベントを開催したいと存じます。

関係の皆様の方のご支援・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

平成23年5月

社団法人日本獣医師会

会長 山根 義久

趣 旨 と 目 的



私たちが飼育する様々な動物たちは、①動物性たんぱく質の供給源として、また、②家族の一員、生活の伴侶として国民生活に貢献するとともに、最近では、③補助犬等の介護・福祉分野、学校での動物飼育を通じた教育分野に対する貢献、更には、④野生動物の生物多様性の確保・自然環境保全のモニターとしての役割や、⑤動物介在療法（アニマルセラピー）、災害救助犬の活躍といった人の健康や生命を守る役割を果たす等、国民にとって身近でかけがえのないものとして、その存在と位置づけが大きく変化し、クローズアップされてきています。

一方、獣医師は、動物に対する医療の提供をはじめ、食肉・卵・乳等の畜産物の生産から流通に至る安全性の確保と生産性の向上、人と動物の共通感染症の防疫、医薬品の開発・研究、獣医学の教育・研究、動物福祉・愛護、野生動物保護管理等の多岐に渡る役割を担っていますが、前述のとおり動物の社会的位置付けが大きく変化する中、その役割は、格段に重みを増し、その業務の質の向上に対する社会的期待は高まってきています。

日本獣医師会は、これらの社会的要請、期待に応え、獣医師及び獣医療の質の向上を支援していくためには国民的理解が不可欠であると考え、動物の果たす社会的役割及びそれを飼育することの重要性、また、動物の健康を支える獣医師の役割とその活動の実情と多様性を広く国民の皆様に普及・啓発するイベント「動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」を2007年から継続して開催しています。

このイベントはまた、獣医師の役割の理解向上を目的に世界獣医学協会(WVA)が各国での開催を提唱している「World Veterinary Day」について、WVA加盟獣医師会である日本獣医師会が開催する日本イベントとしての役割も併せ持っています。

牛や豚、鶏などのいわゆる産業動物、犬や猫などのいわゆる家庭動物等、全ての飼育動物の動物福祉・愛護に配慮された適正な飼養管理、さらには野生動物の適正な保護管理による生物多様性の保全は、食の安全・安心を守ることや共通感染症の予防、豊かな自然環境の維持等、人の健康に深く寄与するものです。

このような人と動物が共存して生きる豊かな社会の構築は、広く国民の生活と社会全体の質の向上につながることから、これを一般に普及する動物感謝デー事業を、本会では公益法人としての普及啓発事業の中核として位置付けています。

また、動物福祉・愛護精神の一層の普及が、ひいては市民生活の向上と動物関連産業基盤全般の発展にも貢献することから、毎年多くの動物関連企業・団体・機関の皆様から幅広いご理解とご支援をいただいているところです。

つきましては、関係省庁・自治体はじめ、動物関連企業・団体・機関の皆様におかれましては、動物感謝デーの趣旨をご理解の上、格別のご高配を賜りますようお願いいたします。

平成 23 年 5 月

2011 動物感謝デー in JAPAN 実行委員会

委員長 山根 義久

(社団法人 日本獣医師会会長)